

未来がよりよくあるために

山岡小学校 6年

蛭田 碧斗（ひるた あおと）



JRC班活動団長、整備委員会委員長、陸上クラブ部長、ホッケー部長、縦割り生活班班長、代表委員会議長…。これは、学校での僕のかた書きです。山岡は少人数の小さな学校で、6年生は僕を入れて、たった2人しかいません。学校の顔として僕たちが先頭に立つようになるので、どうしてもかた書きが多くなってしまいます。4月当初は、本当にてんてこまいの日々で、「大変だ、大変だ。」と、そればかりつぶやいていました。

あるとき僕は、大変とばかり言っても、楽にならないことに気が付きました。「不満や不安を口に出しても、何も変わらない。変わるためには、行動しないとイケない。」そこで、僕は、見通しを持って行動することを心がけるようにしました。すると、不思議と時間に余裕が生まれ、あわてずに行動できるようになったのです。大変な思いをしたからこそ、得ることができた大きな収穫でした。

ところで、906は一体何の数だと思いますか。これは、棚倉町全体の人口密度です。国語の学習で棚倉町の良さや未来に向けて大切にしたいことを考える機会がありました。その中で棚倉町のことについて調べていくと、年々人口が減少していることが分ってきました。ここ10年間で1500人も人口が減っていました。数字で見るインパクトは強烈です。さらに、子どもの数の減り方が大きいことにも気が付きました。つまり、人口減少は今だけの問題でなく、今後も続く、棚倉町の大きな問題ということが分ったのです。

棚倉町には良いところがたくさんあります。たとえば、農業が盛んで、ブルーベリーやイチゴなどの果物、アスパラガスやネギといった野菜、米など、おいしい農作物があるところ。「東北の小京都」といわれるくらい歴史も豊かで、町内には古墳をはじめ、神社やお寺など、魅力的な観光スポットがあるところ。源義家や板垣退助など、教科書に出てきた人物が棚倉町とかかわりがあることを知り、びっくりしました。また、みんなが参加できる行事やイベントが数多くあり、人が集まる楽しい場所だということ。

こうした町の良さは、これからもずっと残していきたい町の宝です。しかし、10年後、20年後と先を考えると、この町のよさを引きついで、残していくのは僕たちの役目です。そうすると、いつか町の顔として先頭に立たなければいけないということになります。それに、ぼくたちが大人になるころには、今、棚倉町を築き上げている大人の方々よりも、その一人ひとりの役割が多くなるはず。今の学校での僕の立場のように。

そう考えると、また「大変だ。」という気持ちになっています。けれども、「大変」は漢字で表すと大きく変わると書くように、大変だからこそ、大事なことに気づき、自分がよりよく変わるチャンスなのかもしれません。6年生になりたての頃の僕が、見通しを持てるようにすればいいと気づいたように、大変だと思うことに立ち向かうことで、成長できることが必ずあるはず。です。

それに、少なくなっているといっても、僕たちは一人ではありません。同世代の仲間がいます。学校の活動でも友達に支えてもらったり、友達が良いアイデアを出してくれたり、協力があつたから乗り越えられたことがたくさんあります。

どんな問題でも、にげずに立ち向かう勇気を、先を見通して、仲間と協力して行動すれば、どんなことでも乗り越えられる気がします。未来がよりよくあるために、僕は、まず、仲間を大切にしていきたいです。よさを作り出すのも、つなぎ、守っていくのも人だからです。仲間と多くの「大変」を経験し、よりよく成長していきたいと思います。